

令和4年度 農林水産業版タウンミーティング（若手農業者対象）会議概要

日 時：令和4年7月20日（水）14：30～15：00

場 所：浪岡中央公民館 3階 大会議室

参加者数：7名

市側出席者：市長、農林水産部長、農林水産部次長、農業政策課長、あおもり産品支援課長、農業振興センター所長、農地林務課長、農業委員会分室長

■昨年度いただいたご意見への対応状況

⇒ 配付資料のとおり

■主なご意見・ご要望等

○青森市は、弘前市などの他市町村のりんご産地と比べ、苗木の購入助成など、補助事業が少ないと感じるため、りんご生産者への支援を検討してほしい。

⇒ 本市では、りんご生産に係るドローンやアシストスーツなどのスマート農業機器の導入助成のほか、りんご生産技術講習会の実施や、りんご生産関連団体への補助などの技術向上の支援事業を実施している。また、経営体質の強化等の観点から、放任樹の処理を実施する団体等に助成するなど総額 1,400 万円余りの支援を実施しており、金額面では近隣の他市町村を上回る助成制度を設けている。支援の内容については、生産者の皆さんの声を聞きながらリニューアルを行っているが、今後も皆さんの意見を受け止めながら考えていきたい。

○りんご生産現場では、繁忙期の人手の確保が非常に難しくなっているため、弘前市で行っているスマホアプリを活用した取組のように、青森市も何か対策を考えているのか聞きたい。

⇒ 現在、青森農業協同組合と連携し、新しく農業に取り組みたいと方と農家をマッチングする事業を実施しており、令和3年度は10人の求人があり、そのうち7組のマッチングを行った。また、県外からの移住就農を進めるため、短期就農モニター事業の実施や、東京での農業フェアへの出展など、いろいろな形で情報発信をして、県外からの労働力確保も実施している。弘前市では、マッチングアプリ（1日バイトアプリ・デイワーク）の導入により、求人者数、求職者数が非常に多く、マッチング率も非常に高い結果となっており、また、アプリの利用者からは、非常に使いやすく便利だという声をいただいていると聞いているため、本市としてもマッチングアプリの運用をぜひ進めたいと考えている。今年度のりんごの収穫期までに、実際にマッチングを運用できるような環境づくりに今一所懸命取り組んでいるため、ご承知いただきたい。

○りんごの剪定・伐採後の枝を処理する際、自走式チップパーでウッドチップにすると様々な利点があるが、購入費用が高く、使用頻度も低いため、購入予定者同士のシェア目的も含め、購入助成を検討してほしい。

⇒ チップパーについては、高額であり、年間を通して使用頻度が少ないという課題もあるため、市内のりんご園地では導入が進んでいない状況である。青森県では、6月に、令和4年度農林水産関連原油・原材料価格高騰等対策事業を立ち上げており、果樹の経営面積を拡大するなどの条件をクリアすることで、トラクターとその搭載式のチップパーが補助対象となる可能性のあるメニューもあるので、ぜひご検討いただきたい。